

米子市児童文化センター再整備基本構想

1 趣旨

米子市児童文化センター（以下「センター」という。）は、米子市制 50 周年記念事業として昭和 58 年 3 月に開館して以来、長きにわたりこどもや子育て世代が集う遊びと学びの場として、こどもの健全育成に資する重要な役割を果たしてきた。しかし、現状においては、開館から 43 年が経過したことに伴う老朽化や、施設の機能が現在のニーズに必ずしも合致していないという課題があり、今後のセンターのあり方について検討が必要な時期を迎えていた。

一方で、鳥取大学医学部附属病院の再整備を契機に、本市と鳥取大学との間で同病院と湊山公園を一体として捉えた「ホスピタルパーク」として新たな地域資源を創出する方向で検討を重ねているところである。また、これと併せて、前述の課題に直面しているセンターと、移転建替えが必要な医学部体育館との一体的な整備による「共創施設」の再整備の可能性についても検討を進めてきたところである。

これまでに市民からの意見聴取を通じて寄せられたセンターへの多様な想いや意見を踏まえるとともに、鳥取大学との共創による新たな魅力の創出にも取り組むことにより、米子の未来を担うこどもたちのための施設としての更なる充実を図ることを基本方針として、「米子市児童文化センター再整備基本構想」を策定する。

2 現状と課題

（１）施設の老朽化と現在のニーズへの対応

センターの老朽化による雨漏りや設備の不具合に対しては必要な修繕を実施しながら施設を活用してきたものの、根本的な解決には至っていない。さらに、平日は施設の 2 階部分が有効活用されていないなど、施設の機能が現在のニーズに必ずしも合致していない状況も認められる。これらを踏まえ、多様化する市民ニーズや利用実態に応じた機能の整理など、次世代を見据えた施設全体のあり方の検討が必要となっている。

（２）天候に左右されない「こどもの遊び場」の確保

最近の猛暑等の影響により、天候に左右されずに安心してこどもが遊ぶことのできる「全天候型のこどもの遊び場」に対する市民ニーズが高まっており、その確保が、本市の大きな課題となっている。

3 市民意見

センターの再整備を検討するに当たり実施したワークショップやアンケート等において、市民から寄せられた主な意見・要望は次のとおりである。

（１）既存の学び機能について
・ 児童図書室の充実（静かに読書や勉強ができる場所の確保）
・ 「科学・文化」の体験機能の充実・強化（プラネタリウムや電子顕微鏡など）
・ 親子が共に育ちあえる居場所

(2) 天候に左右されない屋内の遊び場について
・雨の日や猛暑日でもこどもが思い切り体を動かせる遊び場の整備（卓球やボール遊びなど） ・屋内遊具や遊びの設備の充実
(3) 交流の創出について
・こども同士、親子同士の日常的な交流 ・鳥大生との連携（勉強を教えてもらう、一緒に部活やクラブ活動をするなど）
(4) ハード面の改善について
・老朽化したトイレや授乳室の充実・整備 ・駐車場不足の解消 ・バリアフリー対応の施設整備
(5) その他
・周辺環境の活用（湊山公園、日本庭園、中海など） ・e スポーツも楽しめる環境

4 基本コンセプト

学び・遊び・つながる みんなのワクワク体験空間

再整備に当たり、センターが長年培ってきた「学び」・「遊び」の機能と、鳥取大学との共創により期待できる新たな「全天候型の遊び場」などの機能を融合することで、人々が集い、多様な体験を通じてつながり、次世代を担うこどもたちが健やかに育つための魅力あふれる施設を目指す。

このコンセプトの具現化に向けて、以下の3つの基本テーマを設定する。

(1) 文化や科学を楽しく学ぶ機会の提供

プラネタリウムや電子顕微鏡、児童図書室等、既存の優れた機能や環境を継承しつつ、こどもたちが科学や文化の魅力に触れ、日常では得られない多様な体験活動の機会をさらに充実させることで、こどもたちの知的好奇心を高め、楽しく学ぶことができる施設を目指す。

(2) 全天候型のこどもの遊び場（体育館機能）の確保

雨天や昨今の猛暑等の天候に左右されず、こどもたちがいつでも思いきり体を動かすことができる「広々とした遊びのスペース」を確保する。また、鳥取大学の体育館との機能の併用により、限られた敷地や財源を有効に活かしながら、双方にとって豊かな活動環境の確保を目指す。

(3) 鳥取大学との共創による更なる魅力の創出

鳥取大学が掲げる「ホスピタルパーク構想」と連携し、施設機能の複合化による魅力向上を図る。施設利用の中心となる未就学児・小学生とその保護者に加え、中高生から大学生までの幅広い世代が集うことで、にぎわいが生まれる拠点を目指す。

5 整備概要

(1) 整備場所

現敷地（湊山公園内の 8,094.79 m²） ＋ 日本庭園の一部を活用

長年にわたり市民に親しまれてきたセンターの歴史を受け継ぐとともに、鳥取大学との「共創」を具現化するうえで最も効果的な場所として、現敷地への再整備を基軸とする。また、必要な用地の確保に向け、隣接する湊山公園用地のうち日本庭園部分の一部活用による再整備についても併せて検討することとし、文化財である「清洞寺跡」の未来への継承と、庭園景観も活かした再整備の可能性についても基本計画において検討する。

(2) 整備手法

○案A：建替え（共創施設の新築）

○案B：センターの大規模改修・機能強化及び増築 ＋ 鳥取大学との共創施設（体育館機能）を併設

整備に当たっては、老朽化への対応や多様なニーズへの対応に加え、整備手法の選択による事業費への影響や工事期間中における代替機能の確保など、解決すべき課題がある。このため、本構想段階では、「案A：建替え」及び「案B：大規模改修・機能強化及び増築」の2つの整備手法を並記し、両案を詳細に比較・検討した上で、基本計画において最適な整備手法を決定することとする。

(3) 整備機能（基本的な機能）

機能	説明
児童図書室（自習室）	・親子で会話しながら選書できるエリア ・静かに学習や読書ができる自習スペース
プラネタリウム （天体観測室）	・現センターの特色であり、こどもたちが科学に親しむための設備
多目的（交流）スペース	・利用者が集い、交流するためのスペース ※電子顕微鏡や作品の展示場所としても活用
体験活動スペース （研修室・会議室）	・学校ではできない多様な体験をするためのスペース ※クラブ活動やものづくり等を実施
乳幼児の遊び場	・昼敷き等により乳幼児と保護者が安心して過ごすためのスペース
屋内運動場	・雨天時や猛暑等の天候に左右されず、のびのびと活動するためのスペース ※屋内遊具等の設置・配置を検討 鳥大医学部の体育館としての活用（授業、クラブ活動）
屋外広場	・屋外での遊びや活動のための広場

6 今後の想定スケジュール

本構想に基づき、整備内容をさらに具体化した「基本計画」を令和9年3月に策定し、令和9年度以降、設計業務等に着手する。

令和8年10月：鳥取大学と共創施設整備に係る基本協定の締結

令和8年12月：基本計画（案）提示、パブリックコメント実施

令和9年3月：基本計画策定

令和9年度以降：設計業務等着手